「マイ・ストーリー」を描き、それを語れる力が、これからの大学入試で希望進路を実現するために必要とされることを検証し、そうした力を生徒に育む教師の指導や支援のあり方・方法を、実践事例を通じてお伝えしたVIEWnext高校版2021年8月号・特集はこちら▶

マイ・ストーリーを語れる生徒を育む進路指導

「マイ・ストーリー」とは、生徒一人ひとりの「自分のこれまでの学びや活動、その成果や結果に至るまでのプロセス、これからの展望」を指す。
総合型選抜や学校推薦型選抜（以下、推薦型選抜）を始めとするこれからの大学入試に向けて、「マイ・ストーリー」を描き、それを語れる力を生徒に育む実践事例を紹介する。

1・2年次　ポートフォリオの活用

学びや活動の「記録」を基に、展望につながる「気づき」を促す

和歌山県立田辺高校

マイ・ストーリー 1・2年の課題

- 高校生活の中での様々な活動を通じて生まれた問題意識や感情、今後取り組んでみたいことを、ポートフォリオに蓄積させる
- ポートフォリオに対するコメントや面談を通じて、「これからの展望」を具体化する

生徒の活動記録に対して様々な教師がコメント

過去5年で、国公立大学の推薦型選抜の合格者数が2倍になった和歌山県立田辺高校。その躍進の背景にあるのが、ポートフォリオの活用と、面談での生徒の進路意識の深掘りだ。

同校の生徒は、入学直後から、活動の記録を「Classi」（＊）に蓄積する。学校行事、地域での活動や個人的な体験など、様々な活動の記録を日記のような感覚で残していると、進路指導部長の清水昌樹先生は説明する。

「本校では、1年次の1学期に、推薦型選抜を始めとする多様な入試方式について、生徒に説明します。そこでは、ポートフォリオは、推薦型選抜で役立つだけではなく、一般選抜を受験する生徒にとっても、広い視野で進路を考えるための材料になると話しています」

ポートフォリオを作成する際のポイントとして生徒に伝えていることは、活動を取捨選択せず、できるだけたくさん書くこと、そして、「何をしたか」だけでなく、活動を踏まえて、「今後どうしたいか」までを書くことだ。「今後どうしたいか」を考えることで、学部・学科選択のヒントが見えてくる。

「Classi」のポートフォリオには、地域のボランティアへの参加、大学教授や社会人による講演会の感想など、様々な活動の記録が日々蓄積される。清水先生を始めとする進路指導部の教師、そして各学年団の担任が、それらに目を通す。2学年主任の川本将斗（まさと）先生は、ポートフォリオを充実させるためには、生徒に校内外の多様な活動を紹介すること、活動に参加した生徒の振り返りに対して、教師がしっかりとコメントすることが必要だと説明する。

「生徒のポートフォリオには、担任以外の教師も積極的にコメントするようにしています。教師が反応することで、ポートフォリオを作成する生徒の意欲が高まるからです。また、活動したことを書いただけの生徒には、『どんな気づきがあった？』『次はどうしたい？』などと『Classi』上で問いかけ、振り返りを掘り下げるようにしています」

そして、ポートフォリオの内容や『総合的な探究の時間』での発表の様子などから、活動を通じて大学での学びにつながる問題意識を持つことができた生徒に注目する。そうした生徒には、1年次からでも問題解決につながる研究を具体的に考えさせるため、個別面談で大学の情報を提供していると言う。

「これまで」と「これから」の接続を面談で支援

同校では、2年次の3学期に、その時点で

＊株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合弁会社であるClassi株式会社が提供する、学校教育でのICT活用を総合的に支援するサービス。

「マイ・ストーリー」を生徒と紡ぐためのポートフォリオの活用

ポートフォリオ

1. 将来につながりそうなコンテストへの応募、課外活動の参加などを促し、活動内容を記入させる。その際、活動によって生まれた問題意識や感情、今後取り組みたいことも記入するよう伝える。
2. 担任だけでなく、様々な教師が生徒のポートフォリオにコメントを加えることで、生徒のポートフォリオ作成へのモチベーションを高めるとともに、経験から得られた気づきや、将来につながる問題意識を掘り下げる。

面談

3. ポートフォリオの内容を踏まえて、「これまで」と「これから」を生徒がつなげられるように支援する。「これから」につながる具体的な進路（大学・学部・学科、学問、職業など）を例示する。

貴重な体験をしている生徒、希望進路に関連するコンテストで賞を獲得した生徒などを中心に、ポートフォリオをチェックし、体験を通じて、今後につながる問題意識を持つことができている生徒を見つける。そうした生徒には、１年次からでも問題解決につながる研究を具体的に考えさせるため、個別面談で大学の情報を提供する。

志望理由書

1～3を通じて、生徒のポートフォリオの内容は充実し、志望理由書の作成の準備が整う

※学校資料と取材を基に編集部で作成。

の志望校の志望理由書を作成する。志望理由書では、これまでの経験を踏まえて、大学で学びたいことを語ることが求められるが、「これまで」と「これから」を意識させるのが面談での問いかけだと、清水先生は考える。

「面談でも、これまで取り組んできたことに対する『感想』ではなく『気づき』を語らせるために問いを重ねます。そして、様々な学問や職業を紹介することなどを通じて、その気づきを自分が学びたいと思う学問につなげることで、志望理由書を作成する準備を整えます」

伝統的に面談を重視する同校では、定期考査後や模擬試験後などに面談を実施しており、その実施回数は、年間で10回に迫ることもあると言う。面談では、ポートフォリオでつかんだ生徒の興味・関心を刺激し、「これから」につなげている。

「例えば、オープンキャンパスに参加したことを『Classi』に入力した生徒に、『自分の将来に関係ありそうだと思ったことは？』と聞いたり、『君が関心を持っているのはこんな学問かな？』などと生徒に情報を提供したりします」（川本先生）

川本先生は、ポートフォリオ上はメモレベルの内容しか書けていない生徒も、面談をする中で、活動していた時に抱いた感情を思い出し、それを足がかりに、「これまで」と「これから」を豊かに語り出すことは少なくないと説明する。

「『これまで』と『これから』をつなげるとはどういうことか、自分らしい言葉とはどんなものかを面談を通して理解した生徒は、その後、ポートフォリオの内容も充実していきます。ポートフォリオと面談が相乗的に進路意識を醸成するのだと思います」（川本先生）

左から／楠部（くすべ）正寛（３学年担任・前３学年主任）、清水昌樹（進路指導部長）、川本将斗（まさと）（２学年主任）、保富仁之（ほとみひとし）（進路指導部・国公立大学推薦担当）

学校概要

◎設立　1896（明治 29）年
◎形態　全日制／普通科、自然科学科／共学
◎生徒数　１学年約 280 人
◎2022年度入試合格実績（現浪計）　国公立大は、東京大、京都大、大阪大、神戸大、和歌山県立医科大などに 101 人が合格。私立大は、慶應義塾大、明治大、早稲田大、同志社大、関西学院大などに延べ 521 人が合格。

ポートフォリオの内容を基に、志望理由書をまとめ、「マイ・ストーリー」へと昇華する指導を、さらに詳しく紹介！

VIEWnext ONLINE ▶▶